

物理学と医学の融合ーがん放射線治療の新たな飛躍

主催：日本医学物理学会、社団法人日本物理学会

後援：独立行政法人放射線医学総合研究所、化学放射線科学研究会



日時：2008年3月14日（金） 10：00 - 17：30

場所：東京大学医学部附属病院 入院棟 A15階大会議室、中会議室ほか
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

(URL：<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/access/index.html>)

プログラム

- 10：00 主催者挨拶 二宮正夫（日本物理学会副会長）
主催者挨拶 金井達明（日本医学物理学会会長）
- 10：30 基調講演
座長：遠藤真広（放射線医学総合研究所）
「加速器と医療」永宮正治（J-PARC センター長）
「がん放射線治療と医学物理が果たす役割」唐澤久美子（順天堂大学）
- 13：00 講演
座長：栗本猛（日本物理学会キャリア支援センター副センター長）
「基礎物理からみた医学への貢献」下浦亨（東京大学大学院理学系研究科）
「医学物理からみた基礎物理への期待」西尾禎治（国立がんセンター東病院）
- 14：30 ポスターセッション
医学物理学研究の最先端、関連医療機器の紹介
- 15：10 トークコーナー「医学物理へのキャリアパス案内」
コーディネータ：西尾禎治（国立がんセンター東病院）
最近、医学物理士の道を歩み始めた若手に経歴や現在の仕事をご紹介します。
- 16：00 閉会の辞 坂東昌子（日本物理学会キャリア支援センター長）
- 16：10 病院内放射線治療装置見学
医療機器デモンストレーション（入院棟 A1 階レセプションルーム）
- 17：00 懇親会（入院棟 A1 階レストラン「ねむの樹」）
（懇親会参加には、3,000 円を申し受けます。）

開催にあたって

がんは日本人の死因第1位の疾患であり、私たちの健康にとって重大な脅威です。現在、がんの治療法として化学療法、外科的処置とならび放射線による治療があります。これは、種々の加速器を用いて発生させたX線、電子線、陽子線や炭素線をがん照射して治療する方法であり、近年、さまざまな技術の発展に伴い、放射線治療装置や照射手法が急速に進歩してきました。今や、最先端技術を理解せずに放射線治療を行うことは不可能です。

医学物理士は、このような治療時に求められる放射線の的確な照射を保証するプロフェッショナルです。しかし、若手の医学物理士不足は深刻で、その問題は、国会やメディアにも取り上げられました。

理学、工学、医学、保健学等、さまざまな分野の若い力が必要とされています。多くの方々に、がん放射線治療の精度向上に貢献する医学物理士の仕事に関心をもっていただき、医学物理士を目指す若手が増えることを願い、今回のシンポジウムを開催します。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

参加ご希望の方は、下記 URL より事前登録をお願いします。（参加費無料）

<http://www.ph-career.org/>

お問い合わせは、日本物理学会キャリア支援センターまでお願いします。

電話：03-3434-2674、メール：medandphys@ph-career.org

